

第18回全国棚田（千枚田）サミットが「子どもたちへ残そう地域の宝～地域が育み続ける棚田の文化と景観～」をテーマに開催され、全国各地より約500名が参加した。



[第1日目] 10月19日（金）

● オープニング・開会式 10:00～

地元矢部小学校の児童らによる棚田サミットのテーマソング「棚田へ行こう！」の合唱と熊本県のマスコットキャラクター「くまモン」が登場し、くまモン体操で幕が開け、開会となった。



● 基調講演 10:50～

「棚田の歴史をさかのぼる～白糸台地の棚田から見えてきたもの～」

熊本大学教授 吉村 豊雄 氏

白糸台地の棚田は、先人達が通潤用水事業により巨大な通潤橋の建設し、通潤用水を利用しながら、畑を水田に開墾する等、棚田の開拓歴史の解明ができる歴史的価値があると説いた。



会場及び白糸台地地区に隣接している通潤橋の用水の放流が行われた。



● 事例発表 13:30～

白糸台地棚田と菅棚田での取り組み事例の紹介がされた。



白糸台地棚田では、重要文化的景観の選定を受け、地域の現状を改めて見直すためにお宝探しを実施した。菅棚田では、熊本県内初のオーナー制度を実施し、就農を目指した取り組みを行い、また、茶園オーナー制度や特定農地活用制度の活用を積極的に取り組んでいる。

● 分科会 14:00～

4つの議題に分け、各会場で分科会が行われた。鹿児島県は、棚田景観を活かした持続可能な地域づくりがテーマの分科会へ参加し、棚田の多面的機能を理解し、景観を次世代に引き継いで行くための議論が地元高校生を交えて行われた。

第1分科会：地域が守る棚田の保全と活用

第2分科会：棚田が育み続ける自然と機能

第3分科会：棚田景観を活かした持続可能な地域づくり

第4分科会：棚田を未来に引き継ぐ主体と方法

首脳会議：担い手の確保



● 全体交流会 18:00～

地元産品を使った料理が提供され、地場産品抽選会の開催や郷土芸能が披露される等、全国各地から集まった関係者らとの交流が図られた。



[第2日目] 10月20日(土)

● 棚田現地見学会 9:00～

山都町の代表的な3ヶ所の棚田に分けて、現地見学が行われ、鹿児島県は、峰地区を見学した。

ア 菅地区

イ 白糸地区

ウ 峰地区

はじめに通潤橋の見学を行った後、峰棚田で地元の方々やボランティアガイドの説明を受けながら棚田を見学し、地域の食材を使った団子等のおもてなしを受け、サミット開催を記念し、記念植樹も行われた。



● 閉会式 12:30～

共同宣言と次期開催地である和歌山県有田川町長から来年度開催に向けての挨拶等があり、サミットは幕を閉じた。

